

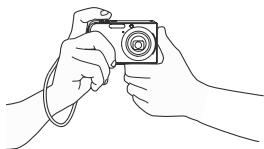
静止画を撮影する

カメラの正しい構えかた

カメラは、片手で持つと手ブレの原因になります。両手でしっかり持って撮影してください。

- 誤ってカメラを落とすことのないように、必ずストラップを取り付け、ストラップに指や手首をかけて操作してください。
- 付属のストラップは本機専用です。他の用途に使用しないでください。
- ストラップを持って本機を振り回さないでください。

横に持つとき



図のように持ち、脇をしっかりと締めてください。

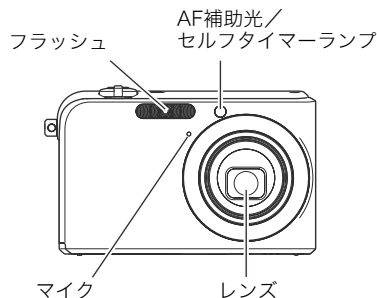
縦に持つとき



レンズよりフラッシュが上にくるように持ちます。

重要

- 指やストラップが図に示す部分をふさがないようにしてください。





参考

- シャッターを押し切った瞬間にカメラがぶれたり、オートフォーカス動作中(シャッター半押し時)にカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えて、シャッターを静かに押し、シャッターを押し切った瞬間にカメラが動かないようにしてください。特に、暗い場所で撮影するときにはシャッター速度が遅くなるので、注意してください。

撮影する

1. 【】(撮影)を押して撮影モードにする

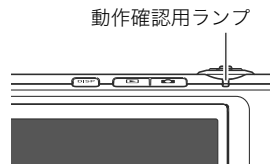
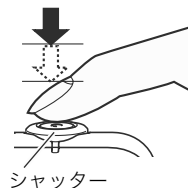
液晶モニターに、被写体(人や風景など)と、オート撮影アイコン“”が表示されていることを確かめます。オート撮影アイコン“”以外のアイコンが表示されるときは、“オート”に切り替えます(64ページ)。



2. ピントを合わせる

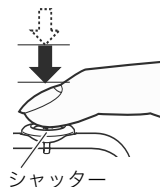
フォーカスフレームを被写体に合わせ、シャッターを半押しします。

オートフォーカス機能で自動的にピントが合い、フォーカスフレームと動作確認用ランプが緑になります。また、シャッター速度、絞り値、ISO感度が自動的に決まります。
→「液晶モニターの見かた」(45ページ)



3. 撮影する

ピントが合った状態でシャッターを最後まで押し込みます。



撮影した静止画は、順次、メモリーカードまたはカメラの内蔵メモリーに保存されていきます。

ピントが合っていない場合

フォーカスフレームが赤のまま、動作確認用ランプが点滅しているときは、ピントが合っていません(被写体との距離が近すぎるときなど)。もう一度、カメラを被写体に向け直してピント合わせをしてみてください。

撮影した静止画を確認するには

撮影した静止画は、少しの間液晶モニターに表示されますが、すぐに消え、次の撮影ができる状態になります。撮影した静止画をゆっくり確認したいときは、【▶】(再生)を押して再生モードにします。【◀▶】を押すと、前後の画像を確認することができます。

撮影モードに戻るには

【📷】(撮影)を押します。

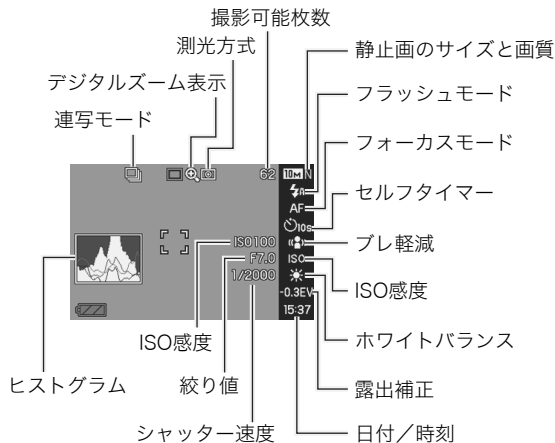
■ シャッターチャンスを見逃さず撮影するには

シャッターを半押しせず一気に押し込むと、クイックシャッター(78ページ)が働いて撮影されます。シャッターチャンスを見逃さず撮影できます。

- クイックシャッターは、通常のオートフォーカスよりはるかに高速でピント合わせを行います。動きの速い被写体を撮影するときに便利です。また、他の人に撮影を頼むときも安心です。
- お買い上げ時はクイックシャッターが働く状態になっています。多少時間がかかっても確実にピントを合わせたい場合などは、クイックシャッターを“切”にしてお使いください。

■ 液晶モニターの見かた

液晶モニターには、さまざまな情報が表示されます。



参考

- 絞りは、レンズに入る光の量を調整する機構です。絞り値は、絞りの開口部の大きさを示します。値が大きいほど開口部は狭くなります。本機では、自動的に調節されます。
- シャッター速度が遅いほどレンズに入る光の量が多くなります。液晶モニターに表示されるシャッター速度の単位は秒です(1/1000秒など)。本機では、自動的に調節されます。

画像サイズを変更する

デジタルカメラの画像は、小さな点(画素・pixels)の集まりです。画像サイズとは、その画像がいくつの画素でできているかを示すもので、横×縦の画素数で表します。お買い上げいただいたときは、10M(3648×2736)(画素・pixels)で撮影するように設定されています。画像サイズが大きいくほど、メモリーに保存できる枚数が少なくなります。

- 画像サイズ、画質と保存できる枚数→180ページ
ここでの設定は、静止画撮影時のみ有効です。
- 動画の画像サイズについて→62ページ

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “画質設定”タブ→“サイズ”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で画像サイズを選び、【SET】を押す

参考

- 操作パネル(36ページ)を使用して、簡単に画像サイズを変更することもできます。
- 画像サイズを選ぶ操作中は以下の情報が切り替わり表示されます。
 - M(メガ、100万)単位での画像サイズ(5Mなど)
 - 画素数で示す画像サイズ(2560×1920など)
 - 最適なプリント用紙のサイズ

画素数(pixels)		プリント用紙のサイズ	
大きい ↑	10M	3648×2736	ポスタープリント
	3:2	3648×2432	ポスタープリント
	16:9	3648×2048	HDTVサイズ
↓ 小さい	5M	2560×1920	A3プリント
	3M	2048×1536	A4プリント
	2M	1600×1200	L判プリント
	VGA	640×480	Eメール

- 3:2(3648×2432 pixels)を選ぶと、プリント用紙の一般的な横縦の比率(3:2)に合うように、画像を3:2の比率で撮影します。
- VGA(640×480 pixels)は、Eメールで画像を送るときに最適なサイズです。
- プリント用紙のサイズは、あくまでも参考のサイズとお考えください(印刷解像度が200dpiの場合)。
- HDTVとはHigh Definition TeleVision(高精細テレビ)の略です。HDTVの画面の横縦比は16:9で、従来のテレビの画面(4:3)より横長(ワイド画面)になります。本機はこのHDTVの画面(ワイド画面)の横縦比に合わせて撮影することができます。

画質を変える

本機では、「高精細-F」（画質優先）、「標準-N」、「エコノミー-E」（撮影枚数優先）のいずれかの画質を選ぶことができます。お買い上げいただいたときは、「標準-N」で撮影されるように設定されています。画質を優先したいときは「高精細-F」を、撮影枚数を優先したいときは「エコノミー-E」を選んでください。

- 画像サイズ、画質と保存できる枚数→180ページ
ここでの設定は、静止画撮影時のみ有効です。
- 動画の画質について→62ページ

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“画質”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で画質を選び、【SET】を押す

参考

- 枝や木の葉が密集しているようなきめ細かい自然画や、複雑な模様を撮影するときは、「高精細-F」にすることで、緻密な画質で撮影できます。

AF補助光の発光をやめる

AF補助光とは、暗い場所での撮影のときなどに、ピント合わせをやすくするためにシャッターを半押ししているときに必要に応じて発光する光のことです。AF補助光発光時は、AF補助光／セルフタイマーランプが点灯します。明るい場所では、AF補助光は発光しません。お買い上げいただいたときはAF補助光が発光するように設定されています。

至近距離で人物などを撮影するときは、次のように操作してAF補助光は発光しないようにすることをおすすめします。

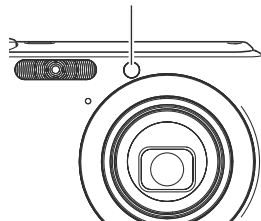
1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“AF補助光”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“切”を選び、【SET】を押す

AF補助光を発光させる場合は、ここで“入”を選びます。

重要

- AF補助光／セルフタイマーランプを覗いたり、人の目に当てないでください。

AF補助光/
セルフタイマーランプ



静止画撮影時のご注意

■ 操作について

- 動作確認用ランプが緑に点滅しているときに電池カバーを開けたり、カメラをUSBクレードルにセットしないでください。今撮影した画像が正しく保存されない、記録されている写真が壊れてしまう、カメラが正常に動作しなくなる、などの原因になります。
- ISO感度が“オート”のとき(84ページ)は、被写体が暗いと、カメラは自動的に感度を上げてシャッタースピードを速くします。このとき、画像にノイズが生じることがあります。
- 不要な光がレンズに当たるときは、手でレンズを覆って撮影してください。

■ 撮影時の画面について

- 液晶モニターに表示される被写体の画像は、確認のための画像です。実際は、設定した画質で撮影されます。
- 被写体の明るさにより、液晶モニターの表示の反応が遅くなったり、ノイズが出ることがあります。
- 極端に明るい被写体を撮影しようとすると、液晶モニターの画像に、縦に尾をひいたような光の帯が表示されることがあります(スミア現象)が、故障ではありません。この帯は、静止画には記録されませんが、動画にはそのまま記録されます。

■ 蛍光灯の部屋での撮影について

- 蛍光灯のごく微妙なちらつきにより、撮影画像の明るさや色合いが変わることがあります。

オートフォーカスの制限事項

- 次のような被写体に対しては、ピントが正確に合わないことがあります。
 - 階調のない壁など、コントラストが少ない被写体
 - 強い逆光のもとにある被写体
 - 明るく光っている被写体
 - ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
 - カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
 - 暗い場所にある被写体
 - AF補助光が届かないほど遠くにある被写体
 - 手ブレをしているとき
 - 動きの速い被写体
 - 撮影範囲外の被写体
- 動作確認用ランプが緑色に点灯している、あるいはフォーカスフレームが緑になっている場合でも、ピントが合わないことがあります。
 - ピントが合わない場合は、フォーカスロック(78ページ)やマニュアルフォーカス(79ページ)で撮影してみてください。

ズーム撮影する

本機では、光学ズーム(レンズの焦点距離を変える方式)で3倍まで、デジタルズーム(画像中央をデジタル処理で拡大する方式)でさらに12~45倍(光学ズームとの併用)までのズーム撮影ができます。デジタルズームの倍率は、画像サイズ(46ページ)の設定によって異なります。また、一瞬で望遠撮影が可能なクイックズーム機能があります。

重要

- デジタルズームでは、その倍率が高いほど撮影画像は粗くなります。ただし、本機では一部粗くならず撮影できる範囲があります(50ページ)。

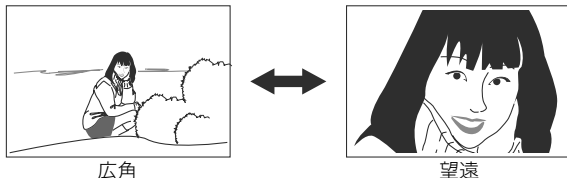
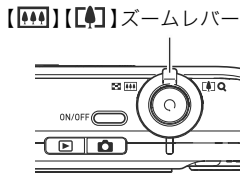
1. 撮影モードにする

2. ズームレバーをスライドさせて、ズームの倍率を変える

【望遠】(被写体が大きくなり、写る範囲が狭くなります)。

【広角】(被写体が小さくなり、写る範囲が広くなります)。

→「光学ズームとデジタルズームの切り替えポイント」(50ページ)



3. シャッターを押して撮影する

参考

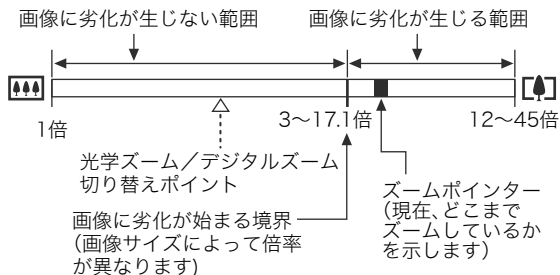
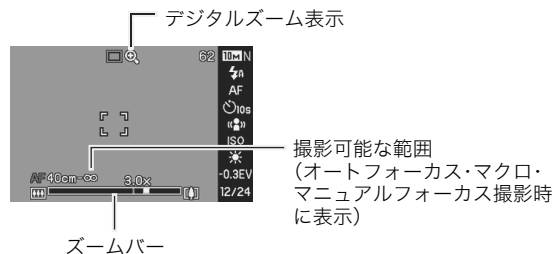
- 光学ズームを働かせると、レンズの絞り値が変わります。
- 望遠で撮影するときは、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。
- 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。シャッターを押す前であれば、光学ズームは使用できます。

■ 光学ズームとデジタルズームの切り替えポイント

手順2で【**C**】にズームレバーをスライドしたままにすると光学ズームの倍率が最も高くなったところでズーム動作が停止します。

いったん離し、続けて【**C**】にズームレバーをスライドするとデジタルズームも作動し、さらにズームの倍率が高くなっていきます。

- デジタルズームに切り替わると、液晶モニターにデジタルズーム表示が現われます。また、ズームバーでおおよその倍率を確認することができます。



- デジタルズームの倍率は画像サイズ(46ページ)の設定によって異なります。画像サイズが小さいほど高倍率になります。また、一般的にデジタルズームを使用した画像は粗くなりますが、本機では、画像サイズが“5M(2560×1920 pixels)”以下の場合、画像は粗くならない範囲があります(HDズーム)。液晶モニターには、デジタルズームしても劣化しない倍率の境界が表示されており、その境界までは劣化せずにズームできます。劣化しない倍率は、画像サイズによって変化します。
- ズームバーのデジタルズームの範囲は、デジタルズームが“入”に設定されているときのみ表示されます(51ページ)。

★ 重要

- タイムスタンプ(87ページ)を設定して撮影すると、デジタルズームは動きません。

■ デジタルズームをオフにする

ズームレバーを【**Q**】にスライドさせても、デジタルズームを使わないようにすることができます。ズームによって画像を劣化させたくないときにご利用ください。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“デジタルズーム”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“切”を選び、【SET】を押す
 - デジタルズームを使えるようにするには、ここで“入”を選びます。

■ 素早くズーム撮影する(クイックズーム)

簡単なボタン操作で、一瞬にして望遠撮影(デジタルズーム)ができます。

■ クイックズームの倍率を設定する

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“クイックズーム”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で倍率を選び、【SET】を押す
 - クイックズームを使用しない場合は、ここで“切”を選びます。

■ クイックズームを使う

1. 撮影モードにする
2. 【▲】を押す
画面が設定した倍率に切り替わります。あらかじめ光学ズームした状態からクイックズームを行うと、ズームの倍率は、光学ズームとクイックズームをかけ合わせた倍率となります。



クイックズームの倍率

3. [▲]を押す






元の倍率に戻ります。

重要

- すでにデジタルズームが働いた状態からクイックズームを行うと、デジタルズームは解除されます。
- タイムスタンプ(87ページ)を設定して撮影すると、クイックズームは働きません。

フラッシュを使う

撮影条件に合わせて、フラッシュの発光方法を切り替えることができます。

発光方法	説明
 フラッシュオート	露出(光の量や明るさ)に応じて自動的に発光します。 <ul style="list-style-type: none">• お買い上げ時の設定です。
 発光禁止	フラッシュは発光しません。
 強制発光	フラッシュは常に発光します。 <ul style="list-style-type: none">• 日中、逆光で被写体が暗く写るときに設定すると、明るく撮影できます(日中シンクロ撮影)。
 ソフト発光	露出に関係なく光量を抑えて発光します。 <ul style="list-style-type: none">• フラッシュの反射など光量を抑えたい場合に使用します。
 赤目軽減	フラッシュオートと同じように自動発光します。フラッシュ撮影時に、人の目が赤く写る現象を軽減することができます。

フラッシュが届く範囲(ISO感度:オート時)

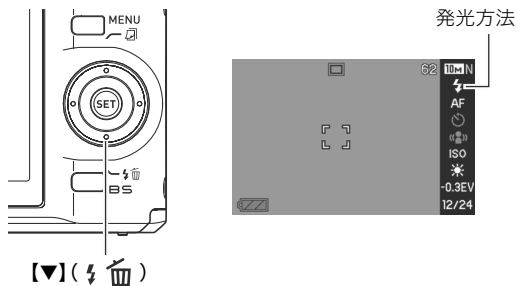
広角時 : 約0.1m~約3.6m

望遠時 : 約0.4m~約1.9m

- 光学ズームに合わせて撮影範囲は変化します。

1. 撮影モードにする

2. 【▼】(🔋📷)を1回押す



3. 【◀】【▶】で発光方法を選び、【SET】を押す

4. シャッターを押して撮影する

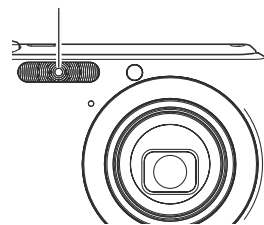
参考

- 画面のレイアウトが“ノーマル”(36ページ)のときは、【▼】(🔋📷)を押すことで発光方法を選ぶことができます。

重要

- フラッシュ撮影時は、フラッシュが指やストラップで隠れないようにしてください。
- ISO感度が“オート”のとき(84ページ)は、感度が高くなり、フラッシュ使用時にノイズが多くなります。ISO感度を下げるとフラッシュが届く範囲は短くなりますが、ノイズは少なくなります。

フラッシュ



赤目軽減について

夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するため起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光(写される人の瞳孔を小さくするためにフラッシュが発光)することにより、人の目が赤く写ることを軽減します。

重要

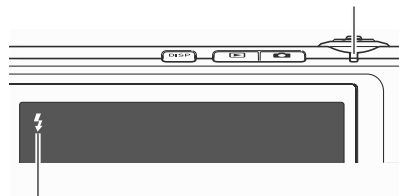
- 赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。
 - 写される人がフラッシュを注視していないと効果がありません。撮影する前にフラッシュを見るように声をかけておいてください。
 - 被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。

■ フラッシュの状態を確認する


シャッターを半押ししてピント合わせをしているとき、液晶モニターや動作確認用ランプで確認できます。

動作確認用ランプ

オレンジに点滅 : フラッシュ充電中
緑に点灯または緑に点滅※ : フラッシュ充電完了



液晶モニター

フラッシュ発光時は“”を表示

※フォーカスモードがオートフォーカスまたはマクロの場合、ピントが合っていないときに緑に点滅

■ フラッシュの強さ(光の量)を変える

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“フラッシュ光量”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】でフラッシュの強さを選び、【SET】を押す
–2(最も弱い)から+2(最も強い)の5つから選べます。

重要

- 被写体が遠すぎたり近すぎたりする場合、強さが変わらないことがあります。

■ フラッシュ撮影時の光量の不足を補う (フラッシュアシスト)

フラッシュが届く範囲よりも遠い被写体を撮影すると、フラッシュの強さが充分でないため、被写体が暗く写ってしまうことがあります。フラッシュアシスト機能を使うと、撮影した被写体の明るさを補正し、フラッシュの光が遠くへ届いたときと似た効果が得られます。



フラッシュアシスト機能を使わないと



フラッシュアシスト機能を使うと

お買い上げいただいたときはフラッシュアシスト機能が働くように設定されています。

フラッシュアシスト機能を使わないときは、次のように操作します。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“フラッシュアシスト”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“切”を選び、【SET】を押す
フラッシュアシスト機能を使う場合は、ここで“オート”を選びます。

重要




- 被写体によっては思った効果が得られないことがあります。
- 下記の操作を行うと、フラッシュアシスト機能を使っても撮影結果にほとんど変化が表れないことがあります。
 - フラッシュの強さを変えたとき(54ページ)
 - 明るさを補正(EVシフト)したとき(80ページ)
 - ISO感度を切り替えたとき(84ページ)
 - コントラストの設定を切り替えたとき(86ページ)
- フラッシュアシスト機能を使うとノイズが増えることがあります。

■ フラッシュ使用時のご注意

- 被写体までの距離が遠かったり近かったりすると、適切な効果が得られません。
- フラッシュの充電時間は、使用条件(電池の状態や周囲の温度など)により異なります。フル充電の電池では、数秒～8秒程度かかります。
- 暗い場所でフラッシュを発光禁止にして撮影すると、シャッター速度が遅くなり、手ブレの原因になります。カメラを三脚などで固定してください。このとき撮影した画像にはノイズが発生し、多少ざらついた感じになることがあります。
- 赤目軽減機能では、フラッシュは露出に合わせて自動的に発光します。明るい場所では発光しません。
- 外光や蛍光灯など他の光源があると色味が変わることがあります。

セルフタイマーを使う

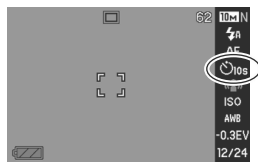
シャッターを押してから一定の時間後にシャッターが切れる(撮影される)ようにすることができます。

セルフタイマーの種類	説明
 10秒	10秒後に撮影されます。
 2秒	2秒後に撮影されます。 <ul style="list-style-type: none">シャッター速度が遅くなる条件下で撮影するときに使うと、手ブレ防止ができます。
 x3 (トリプルセルフタイマー)	10秒後に1枚、その後、次の撮影準備完了の1秒後に1枚、その次の撮影準備完了の1秒後に1枚、計3枚撮影されます。
切	セルフタイマー撮影はできません。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“セルフタイマー”と選び、【▶】を押す

3. [▲][▼]でセルフタイマーの種類を選び、[SET]を押す

液晶モニターにセルフタイマーの種類が表示されます。



4. シャッターを押して撮影する

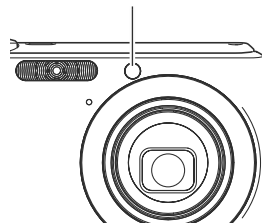
参考

- 操作パネル(36ページ)を使用して、簡単にセルフタイマーの種類を切り替えることもできます。

セルフタイマーを使って撮影すると

- シャッターを押してもすぐには撮影せず、設定した時間が経過すると撮影されます。設定した時間をカウントしている最中は、AF補助光/セルフタイマーランプが点滅します。

AF補助光/
セルフタイマーランプ







- カウントダウン中にシャッターを全押しすると、セルフタイマーを解除することができます。

参考

- トリプルセルフタイマーでは、次の撮影準備が終わると“1sec”と表示され、約1秒後に撮影されます。撮影準備ができるまでの時間は、画像サイズ、画質の設定やメモリーカードの有無、フラッシュの充電状態によって異なります。
- 下記の撮影では、全てのセルフタイマーが使用できません。
 - 全ての連写モード
- 下記の撮影では、トリプルセルフタイマーが使用できません。
 - ベストショット撮影の一部(“名刺や書類を写します”、“ホワイトボードなどを写します”、“古い写真を写します”、“証明写真”、“ムービー”)

何枚も連続して撮影する(連写)

本機は4種類の連写(連続撮影)ができます。

連写の種類	説明
 通常連写モード	メモリーの空き容量いっぱいまで連続撮影ができます。
 高速連写モード	最大3枚まで高速連続撮影ができます。
 フラッシュ連写モード	フラッシュを発光し、最大3枚まで連続撮影ができます。
 ズーム連写モード	液晶モニターに表示された画像と被写体の一部を拡大した画像を同時に記録することができます。

連写の種類を選ぶ

- 撮影モードにして【MENU】を押す
- “撮影設定”タブ→“連写”と選び、【▶】を押す
- 【▲】【▼】で連写の種類を選び、【SET】を押す
液晶モニターに連写の種類が表示され、連写モードになります。
連写モードを解除するときは、“切”を選びます。

通常連写モード/高速連写モード/フラッシュ連写モードで撮影する

1. シャッターを押して撮影する

- 通常連写モードではシャッターを押し続けている間、連続撮影します。シャッターから指を離すと、撮影を停止します。
- 高速連写モード、フラッシュ連写モードではシャッターを押し続けている間、最大3枚まで連続撮影します。3枚撮影する前にシャッターから指を離すと、撮影を停止します。

重要

- 通常連写の速度は、使用するカードの種類によって異なります。内蔵メモリーを使用すると連写の速度は遅くなります。

ズーム連写モードで撮影する

1. 左側の画像で、拡大して記録したい部分を【▲】【▼】【◀】【▶】で枠囲みにして、【SET】を押す

右側には枠で囲んだ部分が拡大して表示されます。



2. シャッターを押して撮影する

左側の画像と右側の画像の2枚の画像が同時に記録されません。

重要

- ズーム連写モードでは、撮影する際にシャッターを押し続ける必要はありません。
- ズーム連写モードでは、デジタルズームやクイックズームは使用できません。
- 画像サイズの設定が“3:2(3648×2432 pixels)”、“16:9(3648×2048 pixels)”の場合、ズーム連写はできません。
- 画像サイズを“10M(3648×2736 pixels)”、“5M(2560×1920 pixels)”に設定して撮影した場合の拡大された画像は、画像のサイズが“3M(2048×1536 pixels)”となります。
- ピント合わせの方法をオートフォーカスに設定した場合、ズーム連写時の測定範囲(AFエリア)は、拡大場所を指定するための枠の中心(スポット)に自動的に切り替わります(77、85ページ)。

連写時のご注意

- 連写では、露出/フォーカス位置は1枚目を撮影した際に固定されますので、2枚目以降は1枚目と同じ露出/フォーカス位置で撮影されます。

- 下記の撮影では、連写はできません。
 - ベストショット撮影の一部(“名刺や書類を写します”、“ホワイトボードなどを写します”、“古い写真を写します”、“証明写真”、“ムービーモード”、“パステル”、“イラスト”、“クロス”)
- 連写中は、撮影が終了するまで、カメラを動かさないように注意してください。
- 連写中にメモリーの残り容量が足りなくなった場合、連写は途中で終了します。
- 連写の速度は、設定されている画像サイズや画質によって異なります。
- 通常連写では、フラッシュモードを切り替えることができません。
- 高速連写では、フラッシュは自動的に(発光禁止)となります。
- フラッシュ連写では、フラッシュは自動的に(強制発光)となります。
- 通常連写では、セルフタイマーは使用できません。
- ズーム連写でのみ、トリプルセルフタイマーは使用できます。
- 高速連写／フラッシュ連写は、通常の撮影と比較すると、解像感が多少落ちたり、ノイズが多少増えます。
- 高速連写／フラッシュ連写では、ISO感度がどこに設定されていても常に“オート”に設定されます。
- フラッシュ連写では、フラッシュ撮影範囲が狭くなります。

静止画に音声を加える(音声付き静止画)


静止画に音声を付け加える(録音する)ことができます。撮影した静止画の説明を自分の声で録音する、その場の雰囲気も音と一緒に残す、撮影された人の言葉も残すなど、自由にご利用ください。

- ひとつの静止画につき、最長約30秒まで録音できます。

■ 音声が録音できる状態にする

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“音声付静止画”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押す

■ 音声を録音する

1. シャッターを押して、静止画を撮影する
撮影した画像とともに“”が表示されます。
 - 録音しないときは、【MENU】を押します。次の静止画を撮影できる状態になります。



録音可能時間


2. もう一度シャッターを押して録音を開始する

3. さらにもう一度シャッターを押して録音を終了する

シャッターを押さなくても、約30秒経過すると録音は終了します。

- 音声付き静止画撮影をやめて、通常の静止画撮影に戻るときは、「音声録音できる状態にする」の手順3で“切”を選びます。

録音した音声を聞くには

再生モードで、音声付きの静止画を表示すると、液晶モニターに“”が表示されます。

【SET】を押すと、音声の再生が始まります。

- 操作について詳しくは95ページをご覧ください。

重要

- トリプルセルフタイマーを使った撮影、および連続撮影では、音声付きの静止画撮影はできません。ただし、撮影後の静止画に音声を追加することができます(113ページ)。

参考

- 音声付き静止画は、パソコンに保存して、Windows Media Playerで再生することができます。
- 音声付き静止画のデータ形式などは以下のとおりです。
 - 画像形式:JPEG(拡張子は、JPG)
 - 録音形式:WAVE/ADPCM記録形式(拡張子は、WAV)
 - 音声ファイルサイズ:約165KB(約5.5KB/秒で30秒間録音時)
- 音声録音中に【DISP】を押しても液晶モニターはオフになりません。

動画を撮影する

動画の画質を決める

撮影前に、動画の画質を選びます。動画の画質とは、再生したときの画像のきめ細かさや滑らかさ、美しさを示す目安です。画質を高品位にすると美しく撮影できますが、撮影できる時間は短くなります。

画質	画素数	転送レート	フレームレート
高品位-HQ	640×480 pixels	約10.2メガビット/秒	25フレーム/秒
標準-Normal	640×480 pixels	約6.1メガビット/秒	25フレーム/秒
長時間-LP	320×240 pixels	約2.45メガビット/秒	12.5フレーム/秒

動画のサイズ


1分間撮影した動画のファイルサイズは、おおよそ以下のとおりです。

画質	サイズ
高品位-HQ	約76.5MB
標準-Normal	約45.75MB
長時間-LP	約18.38MB

動画の形式



撮影した動画は、Motion JPEG準拠のAVI形式で記録されます。本機で撮影した動画は、パソコンにコピーして下記のソフトで再生することができます。

- WindowsではWindows Media Player
- MacintoshではQuickTime


1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“ 画質”を選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で希望の画質を選び、【SET】を押す

動画を撮影する(ムービー)

動画とともに音声も記録されます。音声はモノラルです。

1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“ ムービー”のシーンを選び、【SET】を押す
液晶モニターに“”が表示されます。

3. シャッターを押して撮影を開始する



- 撮影中は、“”が表示されます。

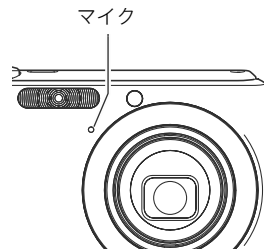
4. もう一度シャッターを押して撮影を終了する

シャッターを押す前にメモリーがいっぱいになると、撮影は終了します。



動画撮影時のご注意

- フラッシュは使えません。
- 音声も同時に記録されますので、次の点に注意してください。
 - 指などでマイクをふさがないようにください。
 - 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
 - 撮影中にボタン操作をすると、操作音が録音されることがあります。
- 極端に明るい被写体を撮影しようとする時、液晶モニターの画像に、縦に尾を引いたような光の帯が表示される場合があります(スマア現象)が、故障ではありません。この帯は、静止画には記録されませんが、動画にはそのまま記録されます。
- 使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、コマ落ちする場合があります。このとき、“”と“”が点滅します。このため、最大転送速度が10MB/s以上のSDメモリーカードの使用をおすすめします。
- 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。シャッターを押す前であれば、光学ズームは使用できます(49ページ)。
- アップで撮影したり、高倍率ズームにしたとき、被写体のブレが目立つため手ブレにご注意ください。三脚を使用することをおすすめします。
- カメラの撮影範囲外ではピントが合わず、ぼけた画像になります。



撮りたいシーンを選んで撮影する(ベストショット)

逆光で人物を撮ったら顔が黒く写ってしまった、あるいはサッカーの試合を撮影したら選手の姿がブレて写ったなど、被写体や撮影条件によっては望みどおりの写真が撮れないことがあります。そのようなときは、撮影シーンに合わせて設定を変えてみてください。操作は【BS】を押して適切なシーンを選ぶだけです。

■ 撮影シーンの例

- “人物を写します”



- “風景を写します”



- “夜景を写します”



- “人物と夜景を写します”



■ シーンを選ぶ

1. 撮影モードにして【BS】を押す

15個のシーンの一覧が表示されます。

- 赤枠で囲まれた画像が現在選択されているシーンです。
- 初期状態では“” (オート) が選択されています。



2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で枠を移動し、シーンを選ぶ


- 【▲】【▼】を押していくと画面が切り替わり、別のシーン一覧が表示されます。
- ズームレバーを【】または【】にスライドさせると、選んだシーンの説明画面が表示されます。この画面で、どんな設定になるかを確認できます。ズームレバーを【】または【】にスライドさせると一覧に戻ります。
- “オート”での撮影に戻るには、シーン番号1の“” (オート)を選んでください。シーンの一覧またはシーンの説明が表示されている状態で【MENU】を押すと、赤枠が“” (オート)へジャンプします。

3. 【SET】を押して、選んだシーンに決める

撮影できる状態に戻ります。

- 別のシーンに切り替えるまで、同じシーンの設定で撮影されます。
- 別のシーンを選び直すには手順1からの操作を繰り返します。



4. シャッターを押して撮影する

- “ムービー”のシーンを選択した場合は、シャッターで撮影の開始と終了を行います(63ページ)。

重要





- “夜景を写します”、“花火を写します”ではシャッター速度が遅くなります。このシーンでは画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理をしています。このため、撮影が終わるまでの時間がシャッター速度に比べて長くなります。その間はキー操作をしないでください。また、手ブレを防ぐため、三脚の使用をおすすめします。
- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではありません。
- 被写体の条件によっては、十分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- 選んだシーンの設定内容は変更することができますが、シーンを選び直したり、電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。変更した内容を何度も使いたいときは、カスタム登録してください(66ページ)。

シーンの説明画面での操作

シーン一覧では、選択したシーン名は表示されますが、その設定内容は分かりません。選んだシーンの設定内容を見たいときは、シーン一覧でズームレバーを【】または【】にスライドさせます。シーンの説明画面が表示されます。



説明画面では、以下の操作ができます。

- 15個表示に戻る:ズームレバーを【】または【】にスライドさせる
- 次の(前の)シーンを表示する:【】【】を押す
- 表示中のシーンを確定して撮影できる状態に戻る:【SET】を押す

参考

- シーンの説明画面で【SET】を押して撮影できる状態に戻った場合、次に【BS】を押すと、確定したシーンの説明画面が表示されます。

■ 自分好みの設定をベストショットに登録する (カスタム登録)

うまく撮れた静止画の設定内容をベストショットモードに登録して、同じ設定で撮影することができます。

1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“BEST SHOT”（新規登録）のシーンを選び、【SET】を押す
3. 【◀】【▶】を押して、登録したい静止画を選ぶ
4. 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押す
登録したシーンには、“マイベストショット”という名前が付きます。

重要

- 内蔵メモリーをフォーマット(130ページ)すると、カスタム登録したシーンファイルは消えてしまいます。

参考

- 各シーンの設定状態はメニューをたどり、各機能の設定内容を表示させることにより、確認できます。
- 登録できるのは本機で撮影された静止画だけです。
- 登録したシーン番号は、登録した順にU1、U2・・・となります。

- 登録される設定内容は下記の通りです。
フォーカスモード、EVシフト、ホワイトバランス、フラッシュモード、ISO感度、測光方式、フラッシュ光量、フラッシュアシスト、フィルター、シャープネス、彩度、コントラスト
- あらかじめカメラに収録されているシーン以外に、最大999件まで登録可能です。
- カスタム登録したシーンは、内蔵メモリー内の「SCENE」フォルダに保存されます(160ページ)。

マイベストショットを削除する

自分で登録(カスタム登録)したマイベストショットは以下の手順で削除することができます。

1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. ズームレバーを【◀】または【▶】にスライドさせ、説明画面を表示させる
3. 【◀】【▶】で削除したいマイベストショットを選ぶ
4. 【▼】(⚡)を押す
5. 【▲】【▼】で“解除”を選び、【SET】を押す
選択したマイベストショットが削除され、次のシーン(マイベストショットまたは新規登録)が表示されます。
6. 【◀】【▶】で別のシーンを選び、【SET】を押す
 - 撮影できる状態に戻ります。

手ブレや被写体ブレを軽減する

遠くの被写体を望遠で撮影したり、動きの速い被写体を撮影したり、薄暗い場所で撮影したりするときに画像がぼやけたり流れて見えることがあります。これはシャッターを押すときにカメラが動いたり(手ブレ)、被写体の動きが速すぎる(被写体ブレ)ことが原因です。ブレ軽減の機能を使って、このようなブレを少なくすることができます。

次のどちらかの操作でブレ軽減の機能を選んでください。

■ ベストショットから選ぶ

1. 撮影モードにして【BS】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“ブレ軽減”のシーンを選び、【SET】を押す


次に別のシーンを選ぶまで“ブレ軽減”のシーン設定で静止画撮影できます。

■ メニュー画面から選ぶ

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “撮影設定”タブ→“ブレ軽減”と選び、【▶】を押す


3. 【▲】【▼】で“オート”を選び、【SET】を押す

- ブレ軽減撮影に設定すると、液晶モニターに“”が表示されます。
ブレ軽減の機能を使わないときは、ここで“切”を選びます。

参考

- 操作パネル(36ページ)を使用して、簡単にブレ軽減の設定をすることもできます。

重要

- ISO感度を「オート」にしていないと、ブレ軽減の機能が動きません(84ページ)。
- ブレ軽減で撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感が劣る場合があります。
- 手ブレや被写体ブレが大きい場合、ブレを軽減できない場合があります。
- 動画撮影では、手ブレ軽減効果はありません。
- シャッター速度が遅くなる撮影をした場合、手ブレによるブレを軽減できない場合があります。その場合は、三脚を使用してください。
- フラッシュが自動で発光した、または強制発光やソフト発光に設定した場合、ブレ軽減アイコン“”は表示されていますが、ブレ軽減機能は動きません。

フラッシュなしで明るく撮影する

暗い場所で撮影するとき、カメラの感度を上げることにより、フラッシュを使わなくても画像が暗くなるのを防ぐことができます。



通常の撮影
(フラッシュ発光時)



感度を上げた撮影

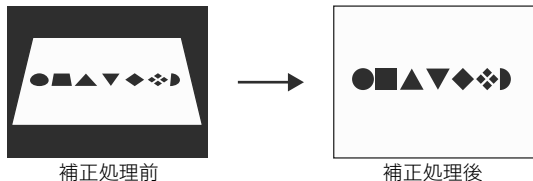
1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“高感度”のシーンを選び、【SET】を押す
3. シャッターを押して撮影する
次に別のシーンを選ぶまで“高感度”のシーン設定で撮影できます。

重要

- “高感度”のシーンで撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感がやや劣る場合があります。
- 極端に暗い環境では、思ったように明るく撮影できない場合があります。
- シャッター速度が遅くなる撮影をした場合、手ブレを防ぐために三脚を使用してください。
- フラッシュが自動で発光した、または強制発光やソフト発光に設定した場合、高感度撮影機能は動きません。

名刺や書類などを撮影する(ビジネスショット)

名刺や書類、ホワイトボードなどの撮影時に、撮影の立ち位置の都合によって正面からは撮影できない場合があります。ビジネスショットのシーンを選べば、斜めから撮影した画像を正面から撮影したかのように補正して撮影することができます。



ベストショットに2つのビジネスショットのシーンが用意されています。

- “名刺や書類を写します”
- “ホワイトボードなどを写します”



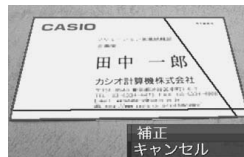
■ ビジネスショットのシーンを設定する

1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“名刺や書類を写します”または“ホワイトボードを写します”のシーンを選び、【SET】を押す
次に別のシーンを選ぶまでビジネスショットでの撮影ができます。

■ ビジネスショットでの撮影方法

1. ビジネスショットのシーンを選んだ後、シャッターを押す

補正確認画面が表示されます。



赤い枠内が補正される領域です。黒い枠が表示される場合、黒い枠は別の補正領域候補を示しています。別の補正領域候補が表示されない場合は手順3に進んでください。

- 補正候補が検出できない場合は、補正確認画面が表示されず、「この画像は補正できませんでした」というメッセージが表示されます。その後、補正されずに画像が保存されます。

2. [◀][▶]で補正領域を選ぶ

3. [▲][▼]で“補正”を選び、[SET]を押す

補正された画像が保存されます。

- 補正せずに保存するときは、“キャンセル”を選びます。

重要

- 被写体が液晶モニターに収まるような構図で撮影してください。被写体が液晶モニターからはみ出すと補正できません。
- 被写体と背景が同色の場合、補正できません。被写体と背景の境界がはっきりするような構図で撮影してください。
- ビジネスショットで撮影中は、デジタルズームは使用できません。光学ズームのみ使用できます。
- ビジネスショットでは、大きな撮影サイズに設定しても2M(1600×1200 pixels)の画像として撮影されます。ただし、撮影サイズの設定が2M(1600×1200 pixels)よりも小さい場合には、設定されている通りのサイズで撮影されます。

証明写真を撮影する

1つの撮影画像から、さまざまなサイズの証明写真を簡単に作成することができます。

作成される証明写真のサイズは下記の通りです。

30×24mm、40×30mm、45×35mm、50×40mm、
55×45mm

■ “証明写真”のシーンを選ぶ

1. 撮影モードにして[BS]を押す

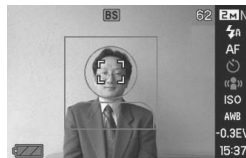
2. [▲][▼][◀][▶]で“証明写真”のシーンを選び、[SET]を押す

次に別のシーンを選ぶまで“証明写真”のシーン設定で撮影ができます。

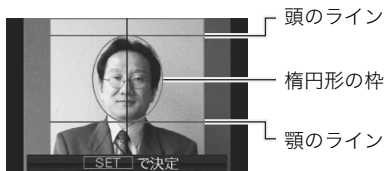
■ “証明写真”のシーンで撮影する

1. 液晶モニターに表示されるフレームに被写体を合わせ、シャッターを押して仮撮影する

- この操作で撮影した画像は、手順3を行うまではカメラに保存されません。



2. 液晶モニターに表示されるフレームに被写体を合わせる



顔が楕円形の枠いっぱいに収まるように調整してください。また、頭のラインと顎のラインからはみ出ないように調整してください。

【▲】【▼】【◀】【▶】 : 被写体を上下左右に移動

ズームレバー : 被写体を拡大／縮小

3. 【SET】を押す

撮影した画像がカメラに保存されます。

重要

- 保存される画像サイズは、撮影サイズの設定内容に関わらず、5M(2560×1920 pixels)となります。

■ 証明写真を印刷する

証明写真用に保存された画像を印刷すると、複数のサイズの証明写真が1枚の用紙にレイアウトされて印刷されますので、必要なサイズの写真を切り抜いてご使用ください。

重要

- 実際に印刷されるサイズは、目的のサイズより多少大きめのサイズとなります。
- この画像を印刷する際は、必ず用紙サイズを“はがき”に設定してください(133ページ)。他の用紙サイズで印刷すると、適切なサイズの証明写真になりません。

古く色あせた写真を蘇らせる(よみがえりショット)

古く色あせた写真を撮影し、あせた色を補正することにより、古い写真を最新のデジタル写真として蘇らせることができます。

■ よみがえりショット機能で撮影する前に

- 写真が液晶モニターに収まるような構図で撮影してください。
- 写真と背景の境界がはっきりするような構図で、できるだけ画面いっぱいに撮影してください。
- 写真表面に光の反射が写り込まないように撮影してください。
- 縦向きで撮影された写真は、必ず写真が横向き(横長の状態)になるような構図で撮影してください。

参考

- 写真の撮影時に、被写体に対してカメラが傾いていると、「台形歪み」(長方形の被写体が遠近の関係で台形として写ってしまう状態)が生じます。本機は写真の輪郭を検出し、画像を自動的に補正するため、撮影時の多少の台形歪みを気にする必要はありません。

■ よみがえりショットのシーンを選ぶ

1. 撮影モードにして[BS]を押す
2. [▲][▼][◀][▶]で“古い写真を写します”のシーンを選び、[SET]を押す
次に別のシーンを選ぶまで“古い写真を写します”のシーン設定で撮影ができます。

■ よみがえりショット機能で撮影する

1. シャッターを押して、写真を撮影する
 - 写真の輪郭確認画面を表示し、続けて撮影した元画像を保存します。ただし、写真の輪郭が検出できない場合は輪郭確認画面が表示されず、エラーメッセージが表示されます(177ページ)。
2. [◀][▶]で輪郭候補を選ぶ



3. [▲][▼]で“決定”を選び、 【SET】を押す

画像の一部を切り抜く操作
(トリミング)に入り、液晶モ
ニターに画像を切り抜くた
めの枠が表示されます。

- 補正せずに保存するとき
は、“キャンセル”を選びま
す。



4. ズームレバーをスライドさせて、枠を拡大／縮小する

5. [▲][▼][◀][▶]で、切り抜きたい部分に枠を移動し、 【SET】を押す

あせた色を自動的に補正し、画像を保存します。

- 画像の周囲に余白を付けたくない場合は、撮影した写真
よりも小さい枠で画像を切り抜いてください。
- 【MENU】を押すと切り抜きを中止し、撮影した元画像を
保存します。

重要

- よみがえりショット機能で撮影中は、デジタルズームは使
用できません。光学ズームのみ使用できます。
- 下記の場合は、撮影した写真の認識ができません。
 - 撮影した写真が液晶モニターからはみ出した場合
 - 写真と背景が同色の場合
- よみがえりショットでは、大きな撮影サイズに設定しても
2M(1600×1200 pixels)の画像として撮影されます。
ただし、撮影サイズの設定が2M(1600×1200 pixels)よ
りも小さい場合には、設定されている通りのサイズで撮影
されます。
- 写真の退色度合いにより、補正の効果が表れない場合があ
ります。

よりよい撮影のための設定

ピントの合わせかたを変える

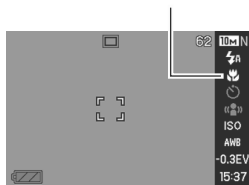
ピント合わせの方法には、以下の5種類があります。これらをフォーカスモードといいます。最初はオートフォーカスモードが選択されています。

フォーカスモード	説明	ピントが合う距離						
AF オートフォーカス	シャッター半押しで自動的にピントが合います。オートフォーカスモードは動画撮影時は使用できません。自動的にパンフォーカスモードになります。	自動調整 (約40cm~∞(無限遠))						
M マクロ(接写)	オートフォーカスより近い距離に自動的にピントが合います。近くのを撮影するときに使用します。	自動調整 (6cm~50cm) ● 最短距離は光学ズームの位置で変わります。						
PF パンフォーカス	パンフォーカスモードは、動画撮影時のみ使用できます。比較的広い範囲にピントが合うように固定されます。オートフォーカスが難しい状況に使用します。	距離固定 ● ピントの合う範囲は光学ズームの位置で変わります。						
∞ 無限遠	ピントは無限遠に固定されます。景色などの遠景の撮影に使用します。	無限遠						
MF マニュアルフォーカス	手動でピントを合わせることができます。	● ピントを合わせることができる範囲は光学ズームの倍率で変わります。 <table border="1"><thead><tr><th>光学ズーム倍率</th><th>範囲</th></tr></thead><tbody><tr><td>1倍</td><td>約6cm~∞</td></tr><tr><td>3倍</td><td>約40cm~∞</td></tr></tbody></table>	光学ズーム倍率	範囲	1倍	約6cm~∞	3倍	約40cm~∞
光学ズーム倍率	範囲							
1倍	約6cm~∞							
3倍	約40cm~∞							

フォーカスモードは次の手順で変えます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“フォーカス方式”を選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】でフォーカスモードを選び、【SET】を押す

フォーカスモードのアイコン



液晶モニターに、設定したフォーカスモードが表示されます。

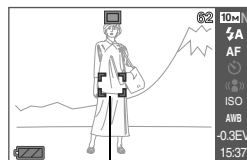
- 各フォーカスモードでの撮影方法は次の項以降で説明します。

参考

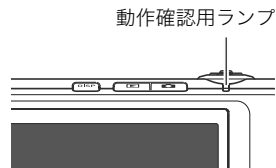
- 操作パネル(36ページ)を使用して、フォーカスモードを切り替えることもできます。

自動でピントを合わせる(オートフォーカス)

1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームの中に入れて、シャッターを半押しする
ピント合わせが行われます。
ピントが合ったかどうかは動作確認用ランプとフォーカスフレームの点灯のしかたによって分かります。



フォーカスフレーム



動作確認用ランプ

状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせできない	緑点滅	赤点灯

2. シャッターを全押しして撮影する

重要

- オートフォーカスモードは動画撮影時は使用できません。自動的にパンフォーカスモードになります。

参考

- 被写体がオートフォーカスの範囲よりも近距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にマクロの範囲までピント調整します(オートマクロ)。
- オートフォーカス撮影時に光学ズームを行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
例: AF ○○ cm - ∞
※○○には数字が入ります。
- 動画撮影時は、オートフォーカスに切り替えることはできません。

近くを撮影する(マクロ)

- シャッターを半押ししてピントを合わせる
ピントの合わせかたはオートフォーカスモードと同じです。
- シャッターを全押しして撮影する

重要

- マクロ(接写)でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がレンズ部にさえぎられて、画像にレンズ部の影が映し込まれることがあります。
- 動画撮影時のマクロモードは固定焦点となります。

参考

- 被写体がマクロの範囲より遠距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にオートフォーカスの範囲までピント調整を行います(オートマクロ)。
- マクロ(接写)撮影時に光学ズームを行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
例: ○○ cm - ○○ cm
※○○には数字が入ります。

オートフォーカス/マクロモードでの撮影テクニック

オートフォーカスの測定範囲(AFエリア)を変える

オートフォーカス(AF)の測定範囲を変更することができます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “撮影設定”タブ→“AFエリア”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

【●】スポット:

中央のごく狭い部分を測定します。フォーカスロック(78ページ)を活用した撮影に便利です。

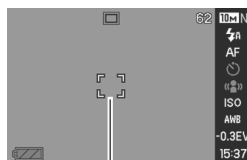
【田】マルチ:

シャッターを半押しすると、9つの測距点の中から、カメラが自動的に最適な測距点を選びます。ピントが合ったと判断された複数の点が同時に緑色で点灯表示します。

参考

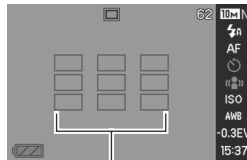
- “【田】マルチ”に設定すると、幅広いフォーカスフレームが表示されます。シャッターを半押しすると、ピントが合った場所のフォーカスフレームが表示されます。

“【●】スポット”の場合



フォーカスフレーム


“【田】マルチ”の場合



フォーカスフレーム

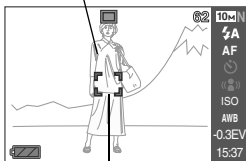
フォーカスロック

フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したいときは、フォーカスロックというテクニックを使います。

- AFエリアは、“ スポット”にしておきます。

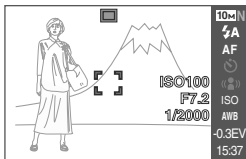
1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームに入れて、シャッターを半押しする

ピントを合わせたい被写体



フォーカスフレーム

2. シャッターを半押ししたまま、撮影したい構図を決める



3. シャッターを全押しして撮影する

参考

- フォーカスロックと同時に露出(AE)もロックされます。

クイックシャッター

クイックシャッター機能を使うと、シャッター半押しによるオートフォーカスが完了する前に、シャッターを全押しすることで、オートフォーカスを作動せずに撮影することができます。シャッターチャンスを逃さずに撮影することができます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“クイックシャッター”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
入:クイックシャッターが機能します。
切:クイックシャッターが機能しません。

ピントを固定して撮影する(パンフォーカス)

パンフォーカスモードは、動画撮影時のみ使用できます。パンフォーカスモードでは、比較的広い範囲にピントが合うように調整されるので、オートフォーカス動作は行われません。

1. シャッターを全押しして撮影する

遠くを撮影する(無限遠)

∞(無限遠)にピントが固定されます。景色など遠景を撮影するときに使用します。車や列車の窓越しなど、オートフォーカスが難しいところからの景色の撮影にも活用できます。

1. シャッターを押して撮影する

手動でピントを合わせる(マニュアルフォーカス)

被写体を拡大表示させた状態で、手動でピント調整ができます。走ってくる列車などを撮影するときに便利です。あらかじめ列車の通過点の目標物(電柱など)に手動で合わせておくことで、ピント合わせの操作をせずに素早く撮影ができます。

1. ピントを合わせたい被写体を黄色枠に入れる

2. 液晶モニターを見ながら【◀】【▶】でピントを合わせる

このとき、ピント合わせがしやすいように拡大表示になります。

【◀】:近い側にピントを合わせる

【▶】:遠い側にピントを合わせる

- 【SET】を押して約2秒間操作をしないと手順1の画面に戻ります。

3. シャッターを押して撮影する



ピント合わせの黄色枠

参考

- マニュアルフォーカス撮影時に光学ズーム(49ページ)を行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。

例:MF ○○ cm - ∞

※○○には数字が入ります。

重要

- マニュアルフォーカスを選択しているとき、キーカスタマイズ機能で設定した【◀】【▶】の設定は使用できません(90ページ)。

明るさを補正する(EVシフト)

撮影時の明るさに応じて、露出値(EV値)を手動で補正することができます。逆光での撮影、間接照明の室内、背景が暗い場合の撮影などに利用すると、より良好な画像が得られます。

露出補正值：-2.0EV~+2.0EV

補正単位：1/3EV

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“EVシフト”と選び、【SET】を押す

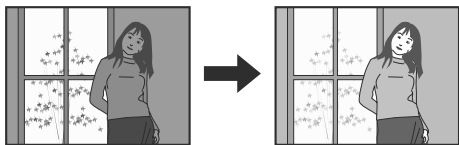


露出補正值

3. 【▲】【▼】で露出補正値を選ぶ

【▲】：+方向に補正。白い物の撮影や逆光での撮影に向きます。

※ベストショットの“逆光”も便利です。



【▼】：-方向に補正。黒い物の撮影や晴天の野外などの撮影に向きます。



露出補正値を元に戻したいときは、反対方向に露出補正して“0.0”に合わせてください。

4. 【SET】を押す

露出値が補正されます。
次に露出補正を変えるまで、
設定した露出補正値で撮影
できます。



露出補正値

重要

- 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。

参考

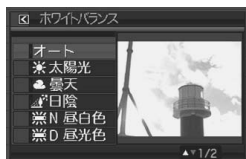
- 操作パネル(36ページ)を使用して、露出補正することもできます。
- 測光方式をマルチパターン測光(画面全体を分割し、それぞれのエリアの測光データを元に露出を決めます)に設定しているときに露出補正を行うと、測光方式が自動的に中央重点測光(中央部を重点的に測光します)に切り替わります。露出補正値を“0.0”に戻すとマルチパターン測光に戻ります(85ページ)。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけで露出値を補正することができます(90ページ)。ヒストグラム表示(88ページ)を確認しながらの撮影に便利です。

色合いを変える(ホワイトバランス)

曇りの日に写真を撮ると被写体が青っぽく写ることがあります。また白色蛍光灯の光で撮ると被写体が緑がかって写ることがあります。このような現象を防ぎ、光源によって被写体を自然な色合いで撮影できるようにする機能がホワイトバランスです。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “画質設定”タブ→“ホワイトバランス”と選び、【▶】を押す



3. 【▲】【▼】で撮影条件を選び、【SET】を押す

オート : 自動的にホワイトバランスを調整

☀ 太陽光 : 晴天時の野外での撮影用

☁ 曇天 : 薄雲～雨天の野外や木陰などの撮影用

🌳 日陰 : 晴天時の、ビルや木の陰などの撮影用

☀ N 昼白色 : 白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用

☀ D 昼光色 : 昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用

💡 電球 : 電球の雰囲気を消した撮影用

マニュアル : その場の光源に合わせて手動で設定します。
詳しくは「マニュアルホワイトバランスを設定する」(83ページ)を参照してください。

参考

- 操作パネル(36ページ)を使用して、ホワイトバランスを変更することもできます。
- ホワイトバランスの“オート”では、被写体の中から白色点を自動的に判断します。被写体の色や光源の状況によってはカメラが白色点の判断に迷い、適切なホワイトバランスに調整されないことがあります。このような場合は、太陽光、曇天など撮影条件を指定してください。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけでホワイトバランスを変更することができます(90ページ)。
- キーカスタマイズ機能で“オート”を選ぶときは、“**AWB**”(オートWB)を選んでください。

■ マニュアルホワイトバランスを設定する

ホワイトバランスの“オート”や太陽光、曇天など光源を指定する固定モードは、複数の光源下など難しい環境では調整できる範囲に限界があり、自然な色合いで撮れないことがあります。マニュアルホワイトバランスを設定すれば、さまざまな光源下で適正な色に調整することができます。マニュアルホワイトバランスを設定するために、白い紙を用意してください。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

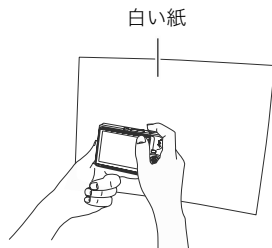
2. “画質設定”タブ→“ホワイトバランス”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“マニュアル”を選ぶ

液晶モニターには、前回設定したバランスで被写体が表示されます。この設定で使う場合は、手順5に進んでください。

4. 撮影場所で画面全体に白い紙を写した状態でシャッターを押す

“完了”と表示されたらホワイトバランスの調整は完了です。



5. 【SET】を押す

ホワイトバランスを決定し、撮影ができる画面に戻ります。

参考

- 一度設定したマニュアルホワイトバランスは、新たにマニュアルホワイトバランスを設定し直さない限り、電源を切っても保持されたままとなります。

ISO感度を変える

ISO感度とは、光に対する感度を表したものです。数値が大きいほど感度が高くなり、暗い場所での撮影に強くなります。シャッター速度を速くしたいときにもISO感度を高くします。同じ撮影条件下ではISO感度を高くするとシャッター速度は早くなりますが、画像は多少ざらついた感じ(ノイズが増加した画像)になりますので、きれいに撮りたいときはなるべくISO感度を低くしてください。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “画質設定”タブ→“ISO感度”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

オート : 撮影条件により自動調整します。

ISO 50 : 感度が低い

ISO 100

ISO 200

ISO 400 : 感度が高い



参考

- 操作パネル(36ページ)を使用して、ISO感度を変更することもできます。

重要

- ISO感度を上げてフラッシュ撮影すると、近くの被写体の明るさが適正にならない場合があります。
- 動画撮影では、ISO感度がどこに設定されていても、常に“オート”に設定されます。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけでISO感度を変更することができます(90ページ)。

光の測りかたを変える(測光方式)

測光方式とは、被写体のどの部分の露出を測るかを決定する方式のことです。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す


2. “画質設定”タブ→“測光方式”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

 マルチ(マルチパターン):


画面の全体を分割し、それぞれのエリアについて測光します。測光結果の明暗パターンによって撮影環境をカメラが自動的に判断し、露出を決定します。さまざまなシーンで失敗の少ない露出が得られます。



 中央重点:

中央部を重点的に測光します。カメラ任せではなく、自分である程度露出をコントロールしたいときに使います。



 スポット:

センターのごく狭い部分を測光します。周囲の影響を受けずに、写したい被写体に露出を合わせることができます。



重要

- “マルチ”設定時にEVシフト(80ページ)を行うと、測光方式が自動的に“中央重点”に切り替わります。EVシフトを“0.0”に戻すと、元の測光方式に戻ります。
- “マルチ”設定時は、撮影モードの情報表示に戻ったときにアイコンが表示されません(164ページ)。

参考

- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけで測光方式を変更することができます(90ページ)。

全体の色調を変える(フィルター)

フィルター機能を使用して、撮影時の画像の色彩効果を変更することができます。色彩効果用のレンズフィルターを装着して撮影したような画像になります。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“フィルター”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
設定できる内容: 切/白黒/セピア/赤/緑/青/黄/
ピンク/紫

鮮明さを変える(シャープネス)

撮影される画像の輪郭の鮮鋭度を設定できます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“シャープネス”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
+2(もっとも鮮鋭度が高い)から-2(もっとも鮮鋭度が低い)までの5段階から選べます。

色の鮮やかさを変える(彩度)

撮影される画像の色の鮮やかさを設定できます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“彩度”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
+2(色の鮮やかさがもっとも高い)から-2(色の鮮やかさがもっとも低い)までの5段階から選べます。

明暗の差を変える(コントラスト)

撮影される画像の明暗の差を設定できます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“コントラスト”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
+2(明暗がもっともクッキリする)から-2(明暗がもっとも平坦になる)までの5段階から選べます。

日付や時刻を写し込む(タイムスタンプ)

撮影時に画像の右下に、日付や時刻を写し込むことができます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“タイムスタンプ”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

例)2006年12月24日 午後1時25分

日付 :日付(2006/12/24)が写し込まれます。

日付+時刻 :日付/時刻(2006/12/24 1:25pm)が写し込まれます。

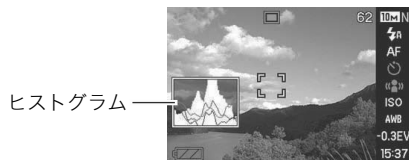
切 :日付/時刻は写し込まれません。

重要

- いったん画像に写し込まれた日付や時刻は消すことはできません。
- 年/月/日の表示は“表示スタイル”の設定(127ページ)に従って写し込まれます。
- 時刻の表示は“日時”の設定(10、127ページ)に従って写し込まれます。
- タイムスタンプを設定して撮影すると、デジタルズームとクイックズームは働きません。
- 下記の撮影では、タイムスタンプは無効となります。
 - ベストショット撮影の一部(“名刺や書類を写します”、“ホワイトボードなどを写します”、“古い写真を写します”、“証明写真”、“パステル”、“イラスト”、“クロス”)
 - ズーム連写

露出を確認する(ヒストグラム)

液晶モニター上にヒストグラムを表示させることで、露出(光の量や明るさ)をチェックしながら撮影することができます。再生モードでは撮影された画像のヒストグラムを見ることができます。



1. 撮影モードまたは再生モードにする

撮影モード、再生モードのそれぞれにヒストグラムの表示の有無が設定できます。

2. 【DISP】を押す

3. “情報”→“ヒストグラム付”と選び、【SET】を押す

参考

- キーカスタマイズ機能で“EVシフト”の切り替えを【◀】【▶】に割り当てると(90ページ)、ヒストグラムを確認しながら【◀】【▶】で露出を補正して撮影することができます。

■ ヒストグラムの見かた

ヒストグラム(輝度成分分布表)とは、画像の明るさのレベルをピクセル数によりグラフ化したものです。縦軸がピクセル数、横軸が明るさを表します。ヒストグラムを見ると、補正するために充分な画像のディテールが画像のシャドウ(左側)、中間調(中央部分)、ハイライト(右側)に含まれているかどうかを確認することができます。もしもヒストグラムが片寄っていた場合は、露出補正(EVシフト)を行うと、ヒストグラムを左右に移動させることができます。なるべくグラフが中央に寄るように補正することによって、適正露出に近づけることができます。さらにR(赤)、G(緑)、B(青)の色成分が独立したヒストグラムも同時に表示されますので、色ごとに「赤成分がオーバー」「青成分がアンダー」のように各色の分布状況も直感的に把握することができます。

典型的なヒストグラムの例

ヒストグラムが左の方に寄っている場合は、暗いピクセルが多いことを示しています。全体的に暗い画像はこのようなヒストグラムになります。また、あまり左に寄り過ぎていると、黒つぶれを起こしている可能性もあります。



ヒストグラムが右の方に寄っている場合は、明るいピクセルが多いことを示しています。全体的に明るい画像はこのようなヒストグラムになります。また、あまり右に寄り過ぎていると、白飛びを起こしている可能性もあります。



ヒストグラムが中央に寄っている場合、明るいピクセルから暗いピクセルまで適度に分布していることを示しています。全体的に適度な明るさの画像はこのようなヒストグラムになります。



重要

- 前記のヒストグラムはあくまでも例であり、被写体によってはヒストグラムの形が例のようにならない場合もあります。
- 撮影したい画像を意図的に露出オーバーやアンダーにする場合もあるので、必ずしも中央に寄ったヒストグラムが適正となる訳ではありません。
- 露出補正には限界がありますので、調整しきれない場合があります。
- フラッシュ撮影など、撮影したときの状況によっては、ヒストグラムによりチェックした露出とは異なる露出で撮影される場合があります。
- RGB(色成分)ヒストグラムは、静止画にのみ表示されます。

撮影を補助するいろいろな機能

撮影モードでは、次のことを行うことができます。

- **【◀】【▶】**キーに機能を割り当てる
- 撮影時に構図の目安となる基準線(グリッド)を表示する
- 撮影した画像を確認する
- 設定を記憶させる
- 各種設定をリセットする

【◀】【▶】キーに機能を割り当てる (キーカスタマイズ)

【◀】【▶】キーに以下の5つのうちどれか1つの機能を割り当てる
ことができます。割り当てた機能は撮影モード時(静止画および
動画)にいつでも使えるので便利です。機能の説明は参照ページ
をご覧ください。

- 測光方式:光の測りかたを変える(85ページ)
- EVシフト:明るさを補正する(80ページ)
- ホワイトバランス:色合いを変える(82ページ)
- ISO感度:ISO感度を変える(84ページ)
- セルフタイマー:セルフタイマーの時間を設定する
(56ページ)
- 切:【◀】【▶】キーに機能を割り当てない

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “撮影設定”タブ→“左右キー設定”と選び、【▶】を押す

3. **【▲】【▼】**で割り当てる機能を選び、【SET】を押す
【◀】【▶】を押すだけで、割り当てた機能を使うことができる
ようになります。

撮影時に構図の目安となる基準線(グリッド)を 表示する

撮影時、液晶モニターに方眼を表示します。カメラを水平や垂直
に保つのに便利です。



1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “撮影設定”タブ→“グリッド表示”と選び、【▶】を押す

3. **【▲】【▼】**で設定内容を選び、【SET】を押す

入:グリッドを表示します。

切:グリッドを表示しません。

撮影した画像を確認する(撮影レビュー)

お買い上げいただいたときは、撮影直後の画像を液晶モニターで確認することができます。この機能を使えなくすることもできます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“撮影レビュー”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定項目を選び、【SET】を押す
入：撮影した画像が約1秒間表示されます。
切：撮影した画像は表示されません。

画面上のアイコンの意味を確認する (アイコンガイド)

撮影モード時に液晶モニター上でアイコンの意味を確認しながら操作することができます(166ページ)。

- アイコンの意味を確認できる機能は、次の通りです。
 - 測光方式、フラッシュ、ホワイトバランス、セルフタイマー、EVシフトただし、測光方式、ホワイトバランス、セルフタイマー、EVシフトのアイコンの意味は、キーカスタマイズ機能(90ページ)を“測光方式”、“ホワイトバランス”、“セルフタイマー”、“EVシフト”に設定したときにのみ表示されます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“アイコンガイド”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
入：各種撮影機能を切り替えたとき、切り替えた機能を示すアイコンの近くに、アイコンの意味が表示されます。
切：アイコンの意味を表示しません。



重要

- アイコンガイドを“切”に設定すると、下記のアイコンも表示されません。
 - フォーカスモードの“**AF**”(74ページ)
 - ホワイトバランスの“**AWB**”(82ページ)

各種設定を記憶させる(モードメモリ)

モードメモリとは、電源を切ったときでも直前の状態を記憶しておく機能です。電源を入れるたびに毎回設定をし直す手間がはぶけます。モードメモリを“切”にすれば、一番おすすめの状態に戻りますが、“入”にしておくと前回の状態を記憶しています。以下の機能の状態を記憶させるかどうかを設定できます。*の機能はお買い上げいただいたときには記憶させる設定になっています。

ベストショット*、フラッシュ*、フォーカス方式、ホワイトバランス、ISO感度、AFエリア*、測光方式、セルフタイマー、フラッシュ光量、デジタルズーム*、MF位置、ズーム位置

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“モードメモリ”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定したい機能を選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
入:電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。
切:電源を切ったときに初期設定に戻ります。

機能	入	切
ベストショット* ¹	最後の状態	ベストショット状態を解除
フラッシュ		オート
フォーカス方式		オート
ホワイトバランス		オート
ISO感度		オート
AFエリア		スポット
測光方式		マルチ
セルフタイマー		切
フラッシュ光量		0
デジタルズーム		入
MF位置		MF(マニュアルフォーカス)に切り替える前の位置
ズーム位置* ²		ワイド端

※1 “入”の場合は、前回の選択シーンとなり、“切”の場合は通常の静止画(オート)になります。

※2 ズーム位置では光学ズームの位置だけを記憶します。



重要

- モードメモリの“ベストショット”の設定を“入”にした場合に電源をオン/オフすると、“ベストショット”以外のモードメモリの設定が入/切のどちらに設定されていても、撮影設定はベストショットの各シーンの初期設定値となります。ただし、“ズーム位置”だけは記録されています。

各種設定をリセットする

本機の設定内容を初期値(ご購入直後の設定)に戻すことができます。初期値については「メニュー一覧表」(167ページ)をご覧ください。

1. **【MENU】**を押す
2. “設定”タブ→“リセット”と選び、**【▶】**を押す
3. **【▲】【▼】**で“リセット”を選び、**【SET】**を押す
 - リセットしない場合は“キャンセル”を選びます。

重要

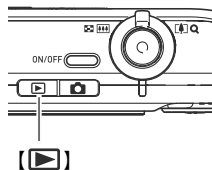
- 下記の項目は、リセットしても初期値に戻りません(168ページ)。
 - ホームタイムの詳細設定
 - ワールドタイムの詳細設定
 - 日時設定
 - 表示スタイル
 - Language
 - ビデオ出力

静止画や動画を再生する

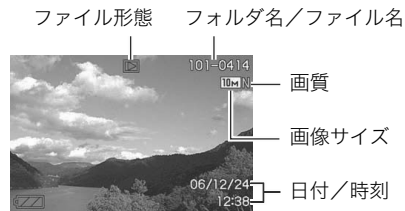
静止画を見る


撮影した静止画を液晶モニターで見ることができます。

1. 【▶】を押して、再生モードにする



- 記録されている静止画の中の1つが液晶モニターいっぱいに表示されます。
- 表示されている静止画についての情報も表示されます。





- ファイル形態: 通常の静止画のときは“
 - 情報表示を消して、静止画だけを見ることもできます(39ページ)。

2. 次の静止画、前の静止画に切り替える

【▶】を押すと次の静止画に、【◀】を押すと前の静止画に切り替わります。




- 静止画以外のもの(動画や、音声だけの記録)があるときは、ファイル形態がそれに対応したアイコンに変わります。
 - : 動画の再生→95ページ
 - : 音声付き静止画の再生→95ページ


参考

- 【◀】【▶】を押し続けると、早送りができます。
- 初めに表示される静止画は簡易画像のため粗く見えますが、すぐに精細な画像になります。ただし、他のデジタルカメラからコピーした画像はこの限りではありません。


撮影モードに切り替えるには

【】を押します。

音声付き静止画の音声を聞く

音声付き静止画(ファイル形態は“”)の音声を、内蔵スピーカーで聞くことができます。

1. 再生モードにして、**[◀][▶]**で音声付き静止画を表示させる

ファイル形態のアイコンが“”になります。このアイコンで、音声付き静止画であることを確認してください。



2. **[SET]**を押す

音声がスピーカーから再生されます。

音声の再生中にできること

再生中に、以下の操作ができます。

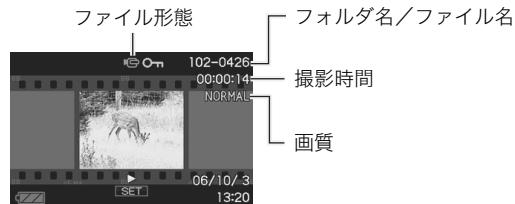
- 早送り／早戻しする：**[◀][▶]**を押し続ける
- 再生と一時停止を切り替える：**[SET]**を押す
- 音量を調節する：**[▲][▼]**を押す
- 表示内容を切り替える：**[DISP]**を押す
- 再生を止める：**[MENU]**を押す

音量調節は、再生または一時停止中にだけできます。

動画を見る

撮影した動画を、液晶モニターで再生することができます。

1. 再生モードにして、**[◀][▶]**で再生したい動画を表示させる
ファイル形態のアイコンが“”になります。このアイコンで、動画であることを確認してください。



映画のフィルムのようなふち取りが、動画であることを示しています。

※ファイルとフォルダについて→117ページ

2. **[SET]**を押して再生を始める

- 最後まで再生されると、手順1の画面に戻ります。

撮影モードに切り替えるには

[📷]を押します。

動画の再生中にできること

早送り／早戻しする	【◀】【▶】を押す • 押すごとに、早送り、早戻しのスピードが速くなります。
早送り／早戻しから通常の再生に戻す	【SET】を押す
再生と一時停止を切り替える	【SET】を押す
一時停止中にコマ送りする	【◀】【▶】を押す • 押し続けると、連続してコマ送ります。
音量を調節する	【▲】【▼】を押す • 音量調節は、再生中にだけできます。
情報表示をオン／オフする	【DISP】を押す
拡大する	ズームレバーを【(Q)】側にスライドさせる • 拡大中は、【▲】【▼】【◀】【▶】で拡大部分を移動できます。 • 動画は3.5倍まで拡大できます。
再生をやめる	【MENU】を押す

重要

- このカメラで撮影した動画以外は、再生できない場合があります。



自動的にページ送りして楽しむ (スライドショー)

撮影、記録したものを自動的に次々と表示、再生させることができます(スライドショー)。

いろいろな見かたを設定することができます。

1. 再生モードにして【MENU】を押す
2. “再生機能”タブ→“スライドショー”と選び、【▶】を押す
3. スライドショーの見かたを設定する
【▲】【▼】で設定を変更したい項目を選び、下の表を参照して設定してください。

表示画像 (スライドショーで 再生させるもの)

- 全画像: メモリー内のすべての静止画、動画、および音声だけの記録
-  のみ: 静止画、音声付き静止画だけ
-  のみ: 動画だけ
- 1枚画像: 好きな画像ひとつだけ (【◀】【▶】で表示させる画像を選びます。)
- お気に入り: お気に入りフォルダ (119ページ)内の静止画

時間 (スライドショー開始から終了までの時間)	1~5分、10分、15分、30分、60分のいずれかを【◀】【▶】で選びます。
間隔 (切り替わりの間隔)	1~30秒、または“最速”を【◀】【▶】で選びます。 <ul style="list-style-type: none"> - 1~30秒を選んだときは、動画や音声付き静止画、音声だけの記録は、選んだ間隔にかかわらず最初から最後まで再生されます。 - “最速”を選ぶと、動画は最初の1コマだけ表示されます。音声だけの記録は再生されません。
エフェクト (特殊効果)	【▲】【▼】で希望のエフェクトを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ● パターン1~4:あらかじめ設定された特殊効果をまじえながら切り替え ● ランダム:パターン1~4の特殊効果を順不同に切り替えて表示 ● 切:エフェクト表示しない <ul style="list-style-type: none"> - “表示画像”を“お気に入り”にしたとき、“間隔”を“最速”“1秒”または“2秒”にしたときは、エフェクトは無効になります。

4. スライドショーを開始する


【▲】【▼】で“開始”を選んで【SET】を押します。

設定した時間が経過するまでスライドショーが続きます。

- 再生中に【◀】【▶】を押すと画像を送ることができます。
- 音量を調節するには、再生中に【▲】【▼】を押します。

スライドショーを中断するには

【SET】を押します。再生モードに戻ります。

- 【MENU】を押すと、中断してメニューに戻ります。
- 【】を押すと、中断して撮影モードに切り替わります。



重要

- 画面の切り替え中ではボタン操作が効かなくなります。画面が静止しているときにボタン操作をしてください。ボタンが効かない場合は、しばらくボタンを押し続けてください。

参考

- “表示画像”を“1枚画像”にしたときに動画を選ぶと、動画は設定された時間内で繰り返し再生します。
- パソコンからコピーした画像や、他のデジタルカメラの画像では、設定した間隔より長くなる場合があります。

■ USBクレードルを使ってスライドショーを楽しむ (フォトスタンド)

カメラをUSBクレードルにセットした状態でスライドショー再生をすることができます。電池の消耗を気にせずに長時間のスライドショーを楽しむことができます。

- あらかじめスライドショーの設定をしておいてください(96ページ)。
- USBクレードルを、付属のACアダプターを使ってコンセントにつないでおいてください。

1. カメラの電源を切り、カメラをUSBクレードルにセットする

2. スライドショーを開始する

USBクレードルの【PHOTO】を押します。

設定した時間が経過するまでスライドショーが続きます。設定した時間が経過すると、自動的にカメラの電源が切れます。

- 再生中に【MENU】を押してスライドショーの設定を変更できます。設定変更後、もう一度【MENU】を押すとスライドショーが再開します。
- 音量を調節するには、再生中に【▼】を押し、液晶モニターの左に音量表示があらわれたら【▲】【▼】を押します。



【PHOTO】

スライドショーを中断するには

USBクレードルの【PHOTO】を押します。カメラの電源が切れません。

重要

- スライドショー中は電池は充電されません。電池の充電をする場合は、スライドショーを終了してください。

参考

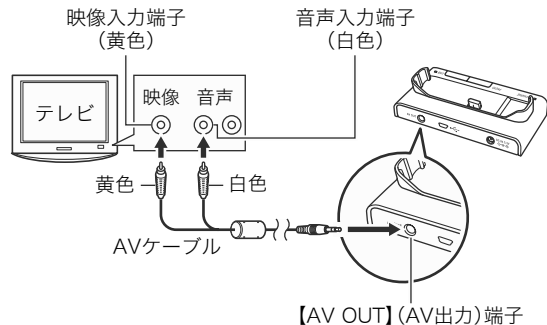
- テレビにつないでスライドショーを見ることができます。ビデオにつなげば、画像をビデオに録画することもできます(99ページ)。

テレビで画像を見る

カメラに記録してある静止画や動画を、テレビの画面で見ることが出来ます。

USBクレードルと、付属のAVケーブルを使います。

1. USBクレードルとテレビをつなぐ



2. カメラの電源を切り、カメラをUSBクレードルにセットする

3. テレビの映像入力を“ビデオ入力”に切り替える

テレビに映像入力が2つ以上ある場合は、USBクレードルをつないだ映像入力を選んでください。

4. 【▶】を押してカメラの電源を入れる

【ON/OFF】や【📷】を押しても再生モードで電源を入れることはできません。

カメラが再生モードになり、テレビの画面に画像が表示されます。(液晶モニターには何も表示されません。)

5. 以後、カメラで再生の操作を行う

- USBクレードルの【PHOTO】を押して、スライドショーを開始することもできます(98ページ)。


カメラの電源を切るには

カメラの【ON/OFF】ボタンまたはUSBクレードルの【USB】を押すと、カメラの電源が切れます。

重要

- テレビに画像を映すとき、カメラの【📷】(撮影) / 【▶】(再生)の動作を必ず“パワーオン”または“パワーオン/オフ”に設定しておいてください(129ページ)。
- 液晶モニターに表示されるアイコンなどは、そのままテレビ画面に表示されます。【DISP】で表示内容を切り替えることもできます。
- 音声はモノラルになります。
- お使いのテレビによっては、画像の一部が表示されないことがあります。
- 音声は最大で出力されます。はじめにテレビの音量を小さくしておき、テレビ側で音量を調節してください。

参考

- USBクレードルを使わずに、別売のモバイルAVケーブル (EMC-3A) でカメラのクレードル接続端子とテレビの映像入力端子を直接接続しても、テレビで画像を見ることができます。
- DVDレコーダーやビデオデッキとUSBクレードルを介して接続して、カメラの画像を録画することができます。付属のAVケーブルを次のように接続します。
 - DVDレコーダーやビデオデッキ側:映像入力端子、音声入力端子
 - カメラ側:USBクレードルの[AV OUT](AV出力)端子このとき、カメラでスライドショーを実行すれば、静止画や動画を記録した思い出のDVDやビデオテープが簡単に作れます。スライドショーの設定を“のみ”にすれば、動画だけの録画もできます(96ページ)。また、【DISP】を押して画面上の情報表示を消すことで、画像だけを録画することができます(39ページ)。

■ 画面の横縦比とビデオ出力の方式を変更する

本機では、ビデオ信号をNTSCまたはPAL、テレビ画面のアスペクト比(横縦比)を4:3または16:9のいずれかで出力できます。お買い上げいただいたときは、日本国内の仕様に合わせて、NTSC4:3で出力します。

海外でお使いの場合でPAL仕様のテレビにつなぐときは、ビデオ信号の出力をPALに切り替えてください。

- NTSC4:3 :日本のほか、アメリカなどでも使用されています。通常の画面比率のテレビ用です。
- NTSC16:9:日本のほか、アメリカなどでも使用されています。ワイド画面のテレビ用です。
- PAL4:3 :ヨーロッパなどで使用されています。通常の画面比率のテレビ用です。
- PAL16:9 :ヨーロッパなどで使用されています。ワイド画面のテレビ用です。

1. 【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“ビデオ出力”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

重要

- お使いのテレビ画面のアスペクト比(4:3あるいは16:9)に合わせ、正しく設定してご利用ください。このとき、テレビ側のアスペクト比の設定も正しく設定されている必要があります。カメラとテレビ両方のアスペクト比の設定が揃っていないと、画面が正常に表示されない場合があります。
- 本機のビデオ方式とテレビのビデオ方式が合わないとき正しく表示されません。
- NTSC、PAL以外の方式のテレビでは、画像は正しく表示されません。

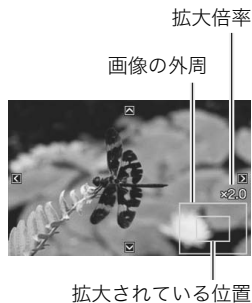
画像を拡大して表示する

撮影した静止画を8倍まで拡大して見ることができます。

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で拡大したい静止画を選ぶ

2. ズームレバーを【Q】(Q)にスライドさせると画像が拡大表示されます。【▲】【▼】【◀】【▶】で、拡大表示される位置を変えることができます。ズームレバーを【AAA】にスライドさせると、縮小表示されます。

- 情報表示をオンにしてあるとき、画像の右下に、拡大されている位置が表示されます。



もとの表示に戻るには

【MENU】または【BS】を押します。

重要

- 画像のサイズによっては、8倍まで拡大できないことがあります。

画面に12枚の画像を表示する

撮影した内容を同時に12枚一覧表示できます。

1. 再生モードにしてズームレバーを【AAA】(AAA)にスライドさせる

画面が12分割され、最後に見ていた画像が枠で囲まれて表示されます。



2. 表示を切り替える

- 【◀】【▶】を押していくと、前後の12枚を表示します。
- 通常表示(1枚表示)で見たいときは【▲】【▼】【◀】【▶】を押して、見たい画像に枠を合わせて【SET】を押します。

カレンダー形式で画像を表示する

1ヶ月分のカレンダーの日付上に、その日に撮影した最初の画像を表示させることができます。日付から画像をすばやく探すことができます。

1. 再生モードにして【▲】

(☐)を押す

カレンダー表示になり、日付と、その日に撮影した最初の画像が表示されます。

- 【MENU】を押してから、“再生機能”タブ→“カレンダー表示”と選び、【▶】を押してもカレンダー表示になります。
- カレンダー表示をやめるには、【MENU】または【BS】を押します。



枠

年/月

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で見たい画像のある日付に枠を合わせ、【SET】を押す

その日に撮影した最初の画像が表示されます。

参考

- カレンダー表示での年/月は、“表示スタイル”(127ページ)の設定によります。

重要

- 下記の機能を使用して保存した画像は、カレンダー表示の日付には正しく反映して表示することができません。
各機能で保存した時点の日付で表示される画像
 - アンクル補正/退色補正/リサイズ/トリミング/コピー撮影時の日付で表示される画像
 - 日時編集